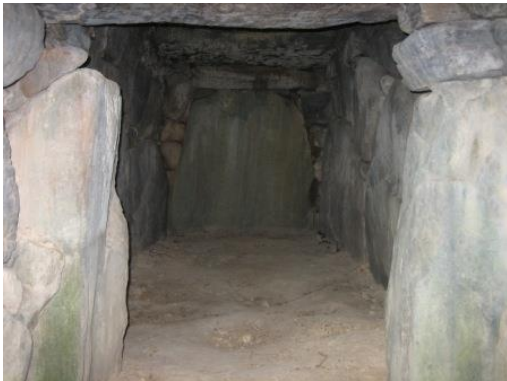


# 宝洞山古墳群

## 《宝洞山1号古墳》



川之江町大門字宝洞山3102-1

宝洞山の南側にあり、天生津（あもうづ）古墳とも言う。

山の南斜面をけずって土を盛り上げた、直径20メートル、高さ5メートルほどの円墳。埋葬施設は、全長8.5mほどの両袖式の横穴式石室。古墳時代終末期の古墳で、四国中央市指定の文化財になっている。

## 《宝洞山2号古墳》



川之江町大門字宝洞山3112-2

宝洞山1号古墳の上、30メートルほどのところにある。今は住宅地の裏山になっている。古墳時代後期から終末期のもので、直径23m、高さ5mほどの円墳。横穴式石室は、羨道部分が削られている。玄門柱石をもつ両袖式石室であるが、玄室内に土砂が流れこんでいて、詳細は不明。

## 《宝洞山3号古墳跡》



宝洞山1号古墳の西側にあった。

1993年に市教委より発掘調査が行われ、玄門柱をもつ両袖式の横穴式石室は、全長は8.5mで羨道は長さ3.7m、幅1.7m程度、玄室は長さ4.8m、幅2.3m程度のものであった。墳丘は推定で直径17mほどの円墳と考えられている。

写真の石は、発掘調査以前は奥壁と思われていたが、調査の結果、天井石の一部らしいことが分かっている。

## 《お姫山古墳》



川之江町片上山3113-2

宝洞山古墳群の西、四国中央病院の裏山頂上部にある。ほとんどこわれているが、1つの墳丘にT字型に2つの石室がある日本でもめずらしい形をしている。

使われている石も右の写真のように小さく、横穴式石室としては古い物と考えられている。1号石室(写真左)は土が流れこんでいる。2号石室(写真右)は、ほとんどこわされ側壁がわずかに残っているていどである。

「川之江市史 古墳時代編」によると墳丘は直径23m、高さ4mの円墳とある。出土品は考古資料館に展示されている。